

美川 仏壇

歴史

美川仏壇の歴史は室町時代といわれ、石川県で最初に仏壇製造が始まったとも伝えられている。19世紀中ごろに出た仏壇師の湊屋村次郎は、塗り物の技術に優れ、色物堆黒[いろものついこく]の技法で美川仏壇を一躍有名にした。湊屋の仏壇は、現在、美川を中心に県内に多く残っている。

旧・美川町(現・白山市)は明治維新後、一時、県庁所在地だったこともある大きな港町で、北前船[きたまえぶね]の寄港地として盛えたこともあって、美川仏壇は海路を利用して遠く北海道にまで販路を拡大していった。第2次世界大戦前には仏壇従事者が200人を超え、仏壇の町として地元民謡にも歌われるほど繁栄した。

特色

型板から文様を取り出す色物堆黒は美川仏壇独特の技法として知られている。色物堆黒はニカワと下地漆を固形になるまで素手で練り合わせ、それを1ミリの厚さまで丸太でむらなく平らに延ばし、そして、唐草や花鳥、鞘形[さやがた]模様などを彫刻したケヤキの板の上に敷き、足の裏で十分に踏み続け、その図柄の型を起こす。最後にハンダで白木状態の須弥壇[しゅみだん]や来迎柱[らいごうばしら]に張り、金箔を施して完成するものである。

また、秋田ヒバやイチョウを使った太く丈夫な木割[きわり]や錆地[さびじ]による堅牢な下地塗を基に、蛇腹[じゃばら]細工、粉[もみ]がら虫喰塗[むしくいぬり]、螺鈿[らでん](青貝塗)、金模様打金具などの独特の技法が伝えられている。



美川佛壇

歴史與特色

美川佛壇の歴史據説是從室町時代開始，也是石川縣內最早開始製作佛壇的地區。19世紀中期出名的佛壇大師湊屋村次郎，因其優秀的漆器技術以及色物堆黒の技法而使美川佛壇一舉成名。

明治維新以後，美川町成為當時的縣政府所在地，是個很大的港口城市。作為北前船的中途港而繁榮昌盛起來，美川佛壇利用海路運輸將銷路擴展遠至北海道。第2次世界大戦前，從事佛壇製造的工匠人數超過200人，是佛壇產地非常繁榮的地區。

蛇腹工藝，稻殼蟲眼塗漆，螺鈿【青貝塗】，金模様打金具等獨特的技法被流傳至今。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要産品名)	仏壇(佛壇)
主な生産者(主要生産者)	美川仏壇協同組合(美川佛壇協同組合) 〒929-0224 白山市美川中町イ103-5(白山市美川中町イ103-5) TEL (076) 278-3938